

保護者 様

甲賀市甲南第一小学校

校長 村地 昭彦

おもな学校感染症とその扱いについて(出席停止)

下の一覧表にあげた病気は学校感染症といわれ、たとえ軽症でも登校できません。
 これらの感染症にかかったら学校に連絡して、医師の許可があるまで家庭で安静にしてください。
 これは法律で定められた『出席停止』で、**医師による証明書が提出された場合は、欠席になりません。**
 一覧表に掲載されている病気に感染された場合は、「出席停止用紙」をお渡しさせていただきますので、
 お知らせください。

第1種学校感染症 治癒するまで出席停止とする

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、コレラ、細菌性赤痢、ジフテリア、腸チフス、パラチフスの11種については、治癒するまで出席停止とする。

第2種学校感染症 学童によくおこる感染症 医師の指示を受けたら学校へ連絡する。

病名	出席停止期間	主な症状	感染・潜伏期間	予防方法
インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで	発熱、頭痛、腰痛、全身倦怠感 鼻づまり、くしゃみ、たん	飛沫 1～3日	うがい、手洗い、十分な睡眠、食事 換気、人混みに出かけない、予防接種
百日咳	特有の咳が消失する、または5日間抗菌性物質製剤による治療終了まで	はじめは軽い咳、のどの発赤 1週間でコンコンという咳が出る	飛沫 1～2週	患者に近づけない。 予防接種
麻疹 (はしか)	解熱した後3日を経過するまで	高熱、せき、鼻水、めやに。頬の内側に白いコプリック斑ができる。 発熱後4日目より皮膚に発疹。	飛沫 9～12日	予防接種 患者の隔離
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が出た後5日を経過し、全身状態が良好になるまで	37～38度の発熱。耳下腺の腫脹 食欲不振、えん下困難。	飛沫 14～24日	患者の隔離、患者の唾液のついたものが口に触れないようにする。
風疹 (3日ばしか)	発疹が消失するまで	発熱、バラ紅色の発疹。耳の後ろ、首、脇の下などが腫れる。	飛沫 2～3週	予防接種 患者の隔離
水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹がか皮化するまで	水ぼうそうのある発疹が、体中に次々と出る。かさぶたとなり治っていく。将来、ヘルペスとして再発あり。	飛沫、直接接触 2～3週	患者の隔離 水ぼうそうに直接触れない。
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消えた後2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ。	飛沫、眼の結膜から 5～7日	手洗い、うがい。水泳前後のシャワー 眼の充血している者、目やにの出ている者は水泳禁止。
結核	感染のおそれがないと認められるまで	初期は自覚症状なし。X線で発見されることが多い。疲労感、寝汗、熱、咳、痰、体重減少、肩こりなど	飛沫 1～2ヶ月	BCG接種 X線による早期発見 栄養と休養に注意

*「インフルエンザ」についてのみ、出席停止報告書に保護者が記入、捺印し、医療機関受診が分かるもの（領収書や薬の説明書）を一緒に添付してご提出いただければ、出席停止の扱いとなります。

第3種学校感染症

病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで

病名	出席停止期間	主な症状	感染・潜伏期間	予防方法
流行性角結膜炎 (プール病)	医師において 感染のおそれ がないと認め るまで	涙がよく出る。目やに、異物が入っている感じ。結膜が充血。	結膜、接触、 汚染物 5～7日	感染力が非常に強いので、患者のさわったものをよく消毒しておく。 手洗いの励行
急性出血性結膜炎		きつい充血 出血してくる。	結膜、汚染物 1～2日	患者の触ったものをよく消毒しておく。 手洗いの励行
腸管出血性大腸菌感染症		激しい腹痛ではじまり、数時間後に水様性の下痢をおこす。嘔吐、嘔気がある。	口から 1～2日	手洗いの励行。 加熱消毒を十分にすること。

その他の感染症

医師の指示により感染のおそれがなくなるまで

溶蓮菌感染症・感染性胃腸炎・マイコプラズマ感染症・ウイルス性肝炎・手足口病・伝染性紅斑（リンゴ病）
ヘルパンギーナ・頭ジラミ・伝染性軟属種（水いぼ）・とびひ